

令和7年度第2回学校運営協議会 議事録

| | |
|-----|----------|
| 校名 | 府立阪南高等学校 |
| 校長名 | 稻田 淳子 |

| | |
|---------|---|
| 開催日時 | 令和7年10月9日(木) 15:30~17:00 |
| 開催場所 | 本校 校長室 |
| 出席者(委員) | 千葉 一夫 会長、撫 俊男 副会長、 田中 秀樹委員、松本 幸治委員 |
| 出席者(学校) | 稻田 淳子校長、伊藤 寿章教頭、 秋 裕基首席、堀 剛首席、松井 大教務部長 |
| 傍聴者 | なし |
| 協議資料 | 次第 |
| 備考 | |

| 議題等(次第順) |
|---|
| 協議・報告 (1) 令和10年度に向けた入試制度変更に伴う「学校特色枠」の設定ならびにアドミッション・ポリシーの変更について (2) 令和8年度教科書選定について (3) 国際交流事業について (4) 学力向上の取り組みについて (5) リーディングGIGAハイスクール(LGH)指定を受けての取り組みについて |
| 協議内容・承認事項等(意見の概要) |
| 協議・報告 (1) 第1回運営業議会でもお伝えしたが、令和10年度より入試方式が変わる。具体的には、各学校において定員の50%を上限として特色枠入試を実施する。また、特色枠入試にあわせる形でアドミッションポリシーの見直しを必要に応じて行うこととする。 ・本校では、国語・英語（英語資格を活用しない点数）・数学の学力検査に調査書中の「保健体育」3か年の評定も各教科と同等に加味することとする。「保健体育」の評定を取り入れた理由は、中学校において「保健体育」の授業へのしっかり取り組んでいる生徒は、高校入学後にクラス、学校全体を牽引できるリーダーシップを発揮、学習の面においても良い方向へ進んでくれる非認知能力が強いと考えたからである。 意見：この選抜方式は一見、「保健体育」の能力重視のようにとらわれるかもしれない。阪南高校として、その裏にある「求める生徒像」が伝わるよう説明の工夫が必要である。 (2) 令和8年度の教科書選定にあたって、「本校の生徒が学びやすい」内容を重視して取り組んだ。 ・特に令和4年度から5年目にあたる令和8年度は教科書の改訂が行われるため、新1学年の教科書も重点的に確認を行い選定した。 (3) 令和6年度はコロナ前の活動内容と同程度に回復した。ニュージーランド、台湾の姉妹校との派遣・来校を通じての交流、韓国への語学研修、また、ニュージーランド、台湾の姉妹校および本校の卒業生を相互にアシスタント教員として派遣。 ・令和7年度は国際交流関係の行事の見直しを行った。その結果、ニュージーランドとは隔年での派遣・来校（ただし、本年はどちらも実施せず）に変更、双方の卒業生の派遣は廃止することとなった。 ・令和7年度の台湾への派遣にあたっては大阪府姉妹校交流支援金を活用した。次年度もニュージーランドの派遣等に活用していく。 ・生徒の世界とつながる方法については、学校経由のみでなく留学を取り扱う旅行業者を積極的に活用していく。 意見：国際交流への取り組みがとてもよく理解できた。今後も積極的に取り組んでほしい。 (4) 「生徒の学力向上」に向けて様々な取り組みを実施した。 ・「学校目標（学力）の提案」「自習スペース（勉強部屋）の拡充」「効果的な講習模試等計画」「授業力向上」等を柱として取り組みを行った。 ・本年度より教員の授業力向上を目的として「公開授業」「研究授業」を実施。また、教員間における相互の授業見学も実施した。 (5) 本年はLGH指定3年目を迎え、成果報告の性質を帶びている。教員の端末使用率は約95%と府下高校の中では高い。 ・教員は板書時間の削減、意見の集約・表示など、時短を中心とした効率化に役立てている傾向が強い。 ・生徒からも図・動画が分かりやすい、カラー資料が見やすい、文字を書かなくてよいなど非常に好意的な意見が多い。 ・今後経年化に伴い機器の故障も増えてくるであろうが、教育庁からの支援がなくなる来年度以降の機器更新・故障修理体制については考えていく必要がある。 |
| 日時 |
| 令和8年2月3日 午前10:00～（予定） |
| 会場 |
| 本校 校長室 |